

教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検及び評価に関する報告書
(令和2年度事業実績)

令和3年8月
茨城町教育委員会

目 次

I	教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要	
1	経緯	1
2	目的	1
3	対象	2
4	点検及び評価の方法	2
5	茨城町教育委員会評価委員会委員	3
6	評価委員会実施日	3
II	茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果（令和2年度事業）	4-5
III	教育に関する事務事業の点検・評価シート	
No.1	児童・生徒防犯対策事業	6
No.2	道徳教育推進事業	7
No.3	読書普及推進事業	8
No.4	語学指導事業	9
No.5	教育支援センター事業	10
No.6	学習指導支援講師配置事業	11
No.7	特別支援教育支援員配置事業	12
No.8	中学生自然体験教室事業	13
No.9	農業体験事業	14
No.10	放課後スクールサポート事業	15
No.11	スクールバス運行事業(小学校)	16
No.12	スクールバス運行事業(中学校)	17
No.13	小学生ヘルメット購入補助事業	18
No.14	中学生ヘルメット購入補助事業	19
No.15	青少年育成事業	20
No.16	放課後子ども教室推進事業	21
No.17	町民教養講座開設事業	22
No.18	長生大学運営事業	23
No.19	人づくり推進事業	24
No.20	図書館運営事務	25
No.21	読書推進活動事業	26
IV	教育委員会における今後の対応について	27

教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要

1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成20年4月1日施行）の施行により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務づけられた。

本報告書は、同法26条の規定に基づき、令和2年度における茨城町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、教育に関する学識経験を有する者の意見を付して報告するものである。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 目的

事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことにより、事業の成果や課題を検証し、効率的かつ効果的な教育行政の推進に資することを目的とする。

3 対象

茨城町第6次総合計画前期基本計画に基づき、令和2年度に実施した教育委員会の主要な21事業を対象とした。

4 点検及び評価の方法

- (1) 各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から検証した。
- (2) 各事業の成果と課題を検証し、今後の事業の方向性を確認した。
- (3) 学識経験者の知見を活用し、各事業を客観的に点検・評価した。

【原課評価：事業の執行者による自己評価】

各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から3段階で評価し、観点別評価の理由を付した。

○必要性 ・ ・ ・ ・ 「必要性が高い」、「一定の必要性がある」、「必要性が低い」

○有効性 ・ ・ ・ ・ 「効果がある」、「一定の効果がある」、「効果がない」

○効率性 ・ ・ ・ ・ 「効率的である」、「概ね効率的である」、「効率的でない」

【委員評価：評価委員による評価】

各事業の今後の方向性について、「現行どおり」、「拡大」、「縮小」、「休止」及び「廃止」の5段階で評価し、言及された課題や改善策等を評価委員意見として付した。

5 茨城町教育委員会評価委員会委員

委員長

高橋 燦吉 (元八戸工業大学学長)

副委員長

清水 正三 (元茨城町教育支援センター 生徒指導相談員)

委員

早乙女 恵美子 (元教育委員会職員)

6 評価委員会実施日

令和3年7月16日(金)

茨城町の教育に関する事務事業の

事業数	分類	目的	VLT	事業資源元				事業対象範囲		
				国	県	町	参	幼児/幼稚園	小学校	
1	生きる力の育成を重視した教育活動の推進・心の問題への対応・安全対策・通学対策の推進	通学時における児童・生徒の安全確保	○			○			No.1 児童・生徒	
2		規範意識や社会性の向上				○			No.2 道徳教育	
3		国語力の向上と心の教育の充実					○		No.3 読書普及	
4		英語教育の強化と指導体制の充実					○		No.4 語学	
5		不登校児童・生徒の学校及び社会復帰の支援					○		No.5 教育支援	
6		個に応じたきめ細やかな学習支援					○		No.6 学習指導支援	
7		障害のある児童・生徒の学習支援					○		No.7 特別支援教育	
8		自然体験と集団生活を通じた人間育成					○	○		
9		体験学習を通じた人間育成					○		No.9 農業	
10		放課後学習活動等の支援					○		No.10 放課後スクールサポート事業	
11 12		通学における利便性・安全性の向上			○		○	○	No.11 スクールバス運行事業(小学校)	
13 14		通学における安全性の向上					○		No.13 小学生ヘルメット購入補助事業	
15		家庭・企業交流・活動・地域等への教育機能の進歩・向上・特色ある講座・体験・教室の推進	体験学習を通じた人間育成	○			○	○		No.15 青少年
16			次代を担う人材の育成	○		○	○	○		No.16 放課後子ども教室推進事業
17	生涯学習と社会参加の促進		○				○	○		
18	高齢者の生涯学習の促進						○	○		
19	文化・芸術を通じた人間育成						○		No.19	
20	生涯学習の推進・利便性の向上・施設整備の促進	地域における情報拠点としての図書館運営				○			No.20 図書館	
21	読書推進活動の	絵本を通じたコミュニケーションの促進	○			○		No.21 読書推進活動事業		

VLT: ボランティア協力者の有無 参: 参加者負担金の有無 原課評価は、「高」、「中」、「低」の3段階評価

点検・評価結果(令和2年度事業)

事業対象範囲		原課評価			委員評価	
中学校	生涯教育	必要性	有効性	効率性	評価	意見等
	防犯対策事業	高	高	高	現	多方面との協力ということでは、更生女性保護司会・保護司会では、地区交番と協力して「ほっとけない運動」(月2回、1時間程度イオンタウンの中を巡視)を行っている。ここ数年間、問題は無い。交番等に話を聞いてみても良いのではないか。子どもたちを見守るという点で、「110番の家」看板は、必要である。
	推進事業	高	高	中	現	外部から人が学校に入る事は、大変良いことである。かなり効果はある。社会規範やモラルが変化している中で、今後幅広くテーマを取り入れていただきたい。
	推進事業	高	高	高	現	新入生へのバインダーの配付は、とても良い。読書によって、自分のやりたいことが見つけれられると良い。そういう見かたで本を読んで欲しい。そのような設問があると良い。
	指導事業	高	高	高	現	小中学校6校に配置されているALTIについては様々な国から来ているので、指導の仕方についてチェック体制があっても良いのではないかと。効果は上がっていると思われる。事業を継続していただきたい。
	センター事業	高	高	高	現	とんぼの広場の実績(どのような相談があるのか、件数、その後の進路等)があると、より意味ある事業だと理解されるのではないかと。意味がある事業なので、継続して欲しい。
	援講師配置事業	高	高	中	現	発達障害の児童・生徒が増えている。個別に対応が必要な児童・生徒がいるのが現状であり、学級が崩壊してしまう恐れもある。非常に事業としては素晴らしい。
	支援員配置事業	高	高	高	現	素晴らしい事業である。支援員は、ある程度の経験がないと難しい部分もある。年々、支援を要する児童が増えている。
	No.8 中学生自然体験教室事業	高	中	中	現	新型コロナウイルスの状況を考慮しながら進めていただきたい。
	体験事業	高	高	高	現	農業をとおして文化を継承できる、素晴らしい事業である。農業を知り郷土愛を養う、意味ある事業である。
		高	高	中	現	続けなければならない事業である。継続していただきたい。
	No.12 スクールバス運行事業(中学校)	高	高	高	現	必要な事業であるため、引き続き継続して欲しい。
	No.14 中学生ヘルメット購入補助事業	高	中	高	現	登下校の際の児童・生徒の安全確保のため、今後も事業を継続して欲しい。
	育成事業	高	高	高	現	コロナ禍において、事業の進め方など大変だと思うが、事業を継続してもらいたい。
		中	中	中	現	児童クラブと放課後子ども教室を両方利用している児童もいるようなので、上手く連携して進めていただきたい。
	No.17 町民教養講座開設事業	中	中	中	現	新型コロナウイルスで、昨年は回数が減っている。今後も工夫をして進めていただきたい。
	No.18 長生大学運営事業	高	高	高	現	今後も現行どおり継続していただきたい。
	人づくり推進事業	高	高	高	現	講師については、幅広い分野から選定して欲しい。町民の関心を引くようなテーマ設定でお願いしたい。
	運営事務	高	中	高	現	日本の四季の行事の紙芝居がないため、あると良い。
		高	高	高	現	図書館の2階に不登校支援教室がある。ボールが下に落ちたりすることもあるので、何かネット等対策が講じられれば良いと思われる。

委員評価は、「現:現行どおり」、「拡:拡大」、「縮:縮小」、「休:休止」、「廃:廃止」の5段階評価

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.1

令和2年度

事業名	児童・生徒防犯対策事業						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育			
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進								
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	13	児童・生徒防犯対策事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度		
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円		
	一般財源		141 千円			136 千円		136 千円		
4 事業の目的	対象	PTA会員, 「110番の家」看板の設置宅								
	目的	登下校時における犯罪等の未然防止に努め, 学校, PTA, ボランティアなど地域全体で児童・生徒の安全を確保することを目的とする。								
5 事業の概要	<p>【保険】 立哨, 引率等, 防犯活動に対する保険のため, 茨城県PTA安全互助会の加入者負担金を支出。</p> <p>【「110番の家」看板】 協力者宅に配布する看板を作製。(看板の残枚数の状況に応じて作製)</p>									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	「110番の家」看板設置軒数					802軒	793軒	779軒		
	小中学校からの不審者情報に関する報告件数					5件	3件	4件		
	小中学校における通学安全対策に係る組織の設置数					6校/6校	6校/6校	6校/6校		
	町防災無線による下校時間の周知					令和2年度コロナ禍のため限定的な実施				
	青色パトロール車による巡視					下校時間における毎週木曜日以外に実施				
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	児童・生徒の安全は地域社会における重要事項の一つであり, 昨今の社会情勢を鑑みてもその必要性は高い。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	報告された不審者情報件数は, 令和元年度と比較して大きな変動はないが, 今後ともこのような活動は継続していくべきものと考えられる。								
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	青色パトロール車については, 町教育委員会と町長公室の連携により日々実施を行っている。防災無線については, これまで児童・生徒の声を活用していたが, コロナ禍もあり録音など行えなかった。無線については町民よりさまざまな意見をいただいております, やり方など対策する必要があります。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大			○ 縮小		○ 休止		○ 廃止
	● 現行どおり									
<p>多方面との協力ということでは, 更生女性保護司会・保護司会では, 地区交番と協力して「ほっとけない運動」(月2回, 1時間程度イオンタウンの中を巡視)を行っている。ここ数年間, 問題は無い。交番等に話を聞いてみても良いのではないかと。子どもたちを見守るという点で, 「110番の家」看板は, 必要である。</p>										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.2
令和2年度

事業名	道徳教育推進事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	17 道徳教育推進事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		90 千円			120 千円		120 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	生命尊重の心や自尊感情を育み、規範意識や社会性の向上を図る。							
5 事業の概要	【道徳講演】 命の大切さ、情報モラル(スマホ・SNSの使い方)、非行防止(薬物依存について)等をテーマに各小中学校で講演会を行う。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度
	道徳講演会実施校数						6校	6校	6校
	実演(演奏等)を含む道徳講演会実施校数						6校	6校	6校
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		充実した道徳教育の時間を確保することは、児童・生徒の道徳性を養い、豊かな心を育成するために必要である。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		道徳教育講演会においては、各学校が講師を招き、子供たちが社会規範や情報モラルを学ぶ機会として積極的に執り行っている。児童・生徒からも積極的な意見交換がされ、豊かな心の育成を進めることが出来た。						
	効率性		○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		各校において、児童・生徒の教育状況や現代的な課題に即した道徳教育を行っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止 ○ 廃止		
	● 現行どおり								
	外部から人が学校に入る事は、大変良いことである。かなり効果はある。社会規範やモラルが変化している中で、今後幅広くテーマを取り入れていただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.3

令和2年度

事業名	読書普及推進事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進									
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	18	読書普及推進事業費		
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		220 千円			228 千円		236 千円			
4 事業の目的	対象	児童・生徒									
	目的	読書活動の推進を通して、児童・生徒の国語力の向上と心の教育の充実を図る。									
5 事業の概要	児童・生徒の読書活動を推進するため、読書記録(書名, 作者名, 感想等)を記載させる用紙及び用紙の保管用のバインダーを配付し、年間を通じて目標冊数を達成した児童・生徒に対して、賞状を授与する。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	小学校1～6年生が1年間で100冊以上の本を読んだ児童数						568	519	514		
	中学校1～3年生が1年間で50冊以上の本を読んだ生徒数						34	49	75		
	読書は好きですか(全国学習状況調査の結果) 「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合						/		小: 73.6% 中: 73.1%		
学校の授業時間以外に、普段(月曜から金曜)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(全国学習状況調査の結果)「30分以上」と回答した児童・生徒の割合						小: 30.7% 中: 25.0%		小: 36.4% 中: 27.3%		小: 31.7% 中: 28.6%	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	児童・生徒の国語力の向上及び心の教育の充実のため、読書の有効性が注目されており、読書活動を推進するために本事業が必要である。									
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない									
	目的とする実績や成果はあげられたか	本事業を中心とした読書活動の推進により、多くの児童・生徒が年間の読書冊数の目標を達成し、これに伴い児童・生徒の読解力が向上してきている。読書離れが問題視される中、具体的な数値目標を設定することで本を読むきっかけとして本事業を活用し、読書習慣がさらに多くの児童・生徒に定着するよう努める。									
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない									
	経費や手段は適切であるか	町の年間の読書冊数の目標を設定し、小学生が100冊以上、中学校は50冊以上の達成者に対して賞状を授与した。また、小学生に対して読書の記録をさせる用紙を配付し、新入生に対しては保管用のバインダーも配付した。今後より事業効果が上がるように努める。									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	新入生へのバインダーの配付は、とても良い。読書によって、自分のやりたいことが見つけられると良い。そういう見かたで本を読んで欲しい。そのような設問があると良い。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.4

令和2年度

事業名	語学指導事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進									
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	12	語学指導経費		
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		15,921 千円			20,548 千円		25,570 千円			
4 事業の目的	対象	児童・生徒									
	目的	児童・生徒の英語学力の向上と、将来、国際社会において活躍できる人材の育成を目指す。									
5 事業の概要	外国人の英語指導助手を小・中学校に配置し、児童・生徒の英語力の向上のため英語教育の充実を図る。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	英語力の向上(県学力診断テスト1年生の平均点)						74.4点	70.1点	85.3点※		
	ALT配置状況						4 名	5名	6名		
	※令和2年度は県学力診断テストが実施無のため、 県学力定着度調査の平均点を参考値として掲載。										
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		国際化社会で活躍できる人材育成のサポート役として、ネイティブ・スピーカーであるALTの必要性は大きい。								
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		ALTの配置により、ALTと関わる時間が増え、日常的に英語に触れる機会や外国の文化について学ぶ機会が増えた。また、授業においてもネイティブ・スピーカーが加わることで質の高い授業を展開している。								
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		英語の授業時間数が増え、ALTの必要性が高まる中、増員によりALTを活用できる時間が増えた。また、授業の打合せ時間も確保できるようになった。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
小中学校6校に配置されているALTについては様々な国から来ているので、指導の仕方についてチェック体制があっても良いのではないかと。効果は上がっていると思われる。事業を継続していただきたい。											

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.5
令和2年度

事業名	教育支援センター事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	③心の問題への対応							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	13	教育支援センター経費
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		6,456 千円			6,426 千円		6,822 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒及び教職員							
	目的	不登校、暴力行為、いじめ等の未然防止及び早期対応と、不登校に陥った児童・生徒の社会復帰支援を行う。また、児童・生徒の指導に関する教職員からの相談を受け、教職員の指導力向上を図る。							
5 事業の概要	【勤務時間】	年間を通じて、実情に応じて勤務(7時間以内/日、3日以内/週)							
	【勤務内容】	主な業務は、不登校をはじめとした生徒指導上の問題を抱える児童・生徒に対する指導や相談業務である。また、各小中学校教師の生徒指導力の向上を図るための研修を行う。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	不登校児童生徒数(30日以上・病欠を除く)					31人	45人	42人	
	児童100人あたりの不登校の出現者数					0.75人	1.11人	1.01人	
	生徒100人あたりの不登校の出現者数					2.62人	3.90人	3.58人	
	教育支援センターへの相談件数					796件	848件	824件	
	相談員の配置状況					7名	7名	7名	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	不登校児童生徒数、100人あたりの不登校出現者数、相談件数は増加傾向が横ばいの状況にあり、相談内容も複雑化している。児童・生徒だけでなく、保護者や学校にとっても必要性は高い。							
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	不登校児童生徒数が増加傾向にある中で、様々な理由により学校に行くことができない児童・生徒にとって、学校に行くきっかけづくりの場となっている。							
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	不登校児童生徒数が増加傾向にあるため、経験豊富な学識経験者を起用することにより、問題に効率的に対処している。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止							
	● 現行どおり								
	とんぼの広場の実績(どのような相談があるのか、件数、その後の進路等)があると、より意味ある事業だと理解されるのではないかと。意味がある事業なので、継続して欲しい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.6

令和2年度

事業名	学習指導支援講師配置事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	16	学習指導支援講師配置事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		14,715 千円			15,194 千円		15,938 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	全国学力・学習状況調査の結果や町指導主事による学校訪問指導の結果を総合的に考慮し、学力低下が懸念される学校や落ち着きのある学級運営が困難化している学校へ講師を配置し、きめ細やかな授業を展開し、学力の向上を図る。							
5 事業の概要	【勤務時間】 年間1,050時間以内(6時間以内/日 , 30時間以内/週 , 5日以内/週) 【勤務内容】 学級担任とともにチームティーチング指導の実施。 少人数の学習集団を形成し、個に応じたきめ細やかな指導の実施。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	学習指導支援講師数(配置校数)					7人(6校)	7人(5校)	7人(6校)	
	全国学力・学習状況調査 対象:小学校第6学年児童	国語の勉強は好きですか (H30年度は理科)				93.5%	65.8%	79.0%	
		国語の授業はわかりますか (H30年度は理科)				95.5%	89.3%	82.7%	
		「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合				69.8%	68.7%	71.4%	
算数の勉強は好きですか				69.8%	68.7%	71.4%			
算数の授業はわかりますか				89.0%	85.4%	77.9%			
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		各学校の状況に応じて、非常勤講師を配置することで、少人数単位で柔軟に対応することができ、指導が行き届くようになるため必要性は高い。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		国語と算数の勉強が好きと答えた児童の割合は増加傾向にある。授業がわかると答えた児童の割合の増加に向け、少人数での学習によるきめ細かな指導に、より力を入れていく必要がある。						
	効率性		○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		各学校の実状に即し、より高い事業効果をあげるべく、県による加配とのバランスを考えながら、効果的に活用できるよう対応していく必要がある。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	発達障害の児童・生徒が増えている。個別に対応が必要な児童・生徒がいるのが現状であり、学級が崩壊してしまう恐れもある。非常に事業としては素晴らしい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.7

令和2年度

事業名	特別支援教育支援員配置事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	17	特別支援教育支援員配置事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		11,648 千円			14,552 千円		19,732 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒(肢体不自由・発達障害がある者)							
	目的	普通学級及び特別支援学級に在籍する肢体不自由や発達障害のある児童・生徒に対して、校内における日常生活の介助や危険な行動の防止など安全面に配慮した支援を行う。							
5 事業の概要	【勤務時間】 小学校：年間900時間以内(6時間以内/日，28時間以内/週，5日以内/週) 中学校：年間1,330時間以内(7時間以内/日，35時間以内/週，5日以内/週) 【勤務内容】 日常生活の介助，教室間移動の介助，健康・安全確保，教材作成等を行う。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	特別支援教育支援員数					14人	16人	18人	
	特別支援教育支援員配置校数					5校	5校	5校	
	支援を要する児童数／児童数(全体)					26人／1,498人	31人／1,446人	43人／1,382人	
	支援を要する生徒数／生徒数(全体)					1人／763人	3人／743人	7人／782人	
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	支援を要する児童生徒が年々増加する中、適切な教育を実施し、円滑な学校運営を行うためには、各学校の実状を把握したうえで現状に見合った数の支援員を配置することは必要である。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	支援を要する児童・生徒一人一人の状況に応じて丁寧に対応できるため、同時に、クラス全体の落ち着きや安全の確保につながっている。							
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的である <input type="radio"/> おおむね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	常に支援を要する児童・生徒が増加する一方で、支援員の1日当たりの勤務時間数が短いことが課題となっている。限られた予算で効率的に事業を行うため、支援員の配置の仕方について検討が必要である。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり	素晴らしい事業である。支援員は、ある程度の経験がないと難しい部分もある。年々、支援を要する児童が増えている。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.8

令和2年度

事業名	中学生自然体験教室事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	28	中学生自然体験教室事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		7,890 千円			7,710 千円		0 千円	
	一般財源		388 千円			460 千円		0 千円	
4 事業の目的	対象	生徒(中学2年生)							
	目的	集団生活を通して、礼儀・規律・責任・協力・自立などの心を育むとともに、生徒相互及び生徒と教師の心の交流を深める							
5 事業の概要	町内2校の中学2年生が合同で、4泊5日の日程で北海道の雄大な自然環境と文化を実体験する。 ※ふるさと創生事業基金充当 参加者×3万円 令和2年度については、新型コロナウイルス感染症まん延の為、中止。代替日帰り遠足を実施。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	明光中参加生徒数(令和2年度代替遠足参加者)					151名	146名	145名	
	青葉中参加生徒数(令和2年度代替遠足参加者)					91名	91名	92名	
	計					242名	237名	237名	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	中学校時代の良き思い出作りとして、また、豊かな情操教育の一環として必要性が高い。							
	有効性	○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	令和2年度はコロナ禍のため、北海道の広大な自然を体験することができなかったが、代替の日帰り遠足ではあるが、実施でき生徒の思い出作りは出来た。							
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	令和2年度は、町主体ではなく、学校主体で可能なプランを選択し実施していただいた。経費について、キャンセル費用は、町にて新型コロナ対策の交付金を活用し各家庭に負担なく対応を実施した。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止				
	● 現行どおり								
	新型コロナウイルスの状況を考慮しながら進めていただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.9
令和2年度

事業名	農業体験事業						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育			
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進								
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	29	農業体験事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度		
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円		
	一般財源		101 千円			98 千円		82 千円		
4 事業の目的	対象	児童・生徒								
	目的	農業体験を通して、生命を大切に作る心や思いやり、助け合いの心、困難にくじけず力強く生きる力を育む。								
5 事業の概要	【小学校】 農家の方々からの指導・助言をもらいながら各校の計画により稲や野菜の栽培及び収穫を行う。				【中学校】 中学校近くの遊休農地において、年間を通して農作物を栽培し、収穫後の農作物の活用方法等も決める。					
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		平成30年度		令和元年度		令和2年度			
	実施内容		<p>小学校 野菜、花の栽培(トウモロコシ、アサガオ、ツルレイシ、サツマイモ、ジャガイモ、稲など)、観察、収穫、調理実習など</p> <p>中学校 サツマイモ、白菜、ブロッコリーの栽培、収穫、調理実習など</p>		<p>小学校 野菜、花の栽培(トウモロコシ、アサガオ、ホウセンカ、ツルレイシ、サツマイモ、オクラ、キャベツ、ジャガイモ、稲など)、観察、収穫、調理実習など</p> <p>中学校 サツマイモ、稲の栽培、収穫、調理実習など</p>		<p>小学校 野菜、花の栽培(トウモロコシ、ヒマワリ、アサガオ、ホウセンカ、マリーゴールド、ツルレイシ、サツマイモ、オクラ、ピーマン、ゴーヤ、ジャガイモ、稲など)、観察、収穫、調理実習など</p> <p>中学校 ブロッコリー、白菜、大根、サツマイモの収穫、調理実習など</p>			
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		茨城町の基幹産業である農業に対する興味・関心を高めるとともに、農業の重要性や勤労の尊さを学ぶ機会を与えるため、事業の必要性は高い。							
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか		活動を通して、生命の大切さを学び生産者の苦勞を知り感謝の気持ちを持つことができるようになった。また、仲間と協力して活動を行うことの大切さを学ぶことができた。							
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか		体験学習にかかる材料費、協力していただいた農家に対する謝金等適切に執行されている。また、JA水戸の協力を得て、職員を講師として派遣してもらっている学校もある。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり									
	農業をとおして文化を継承できる、素晴らしい事業である。農業を知り郷土愛を養う、意味ある事業である。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.10

令和2年度

事業名	放課後スクールサポート事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	31	放課後スクールサポート事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		1,230 千円			990 千円		1,183 千円	
4 事業の目的	対象	児童(青葉小学校・葵小学校 低学年)							
	目的	スクールバスを運行する青葉小学校、葵小学校に配置し、高学年の下校時刻との間にずれが生じる低学年に対し、待ち時間に学習等活動の支援を行う。							
5 事業の概要	<p>【勤務時間】 青葉小学校、葵小学校の授業日において、実情に応じて勤務する 勤務時間は1日2時間以内</p> <p>【勤務内容】 児童の学習の見守り、読書活動を実施</p>								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度
	放課後スクールサポーターの配置状況						18名	16名	16名
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合によるスクールバスの導入に伴う児童の下校時間のずれを解消することを目的とした事業である。放課後のクラブ活動や委員会等に出してしまう教職員をサポートするために必要性は高い事業である。							
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	上級生の下校を待つ時間を有効に活用することで、下級生の学習習慣の定着につながっている。また、教員は委員会活動等に従事することができている。							
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない							
経費や手段は適切であるか	クラスごとに配置しており、人員が必要とされる一方で、短時間勤務のため、サポーターの収入は少なく、人員確保が課題である。放課後児童クラブなど、他の職種で学校に勤務している方に積極的に声掛けを行っていく必要がある。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止				
	● 現行どおり	<p>○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止</p> <p>● 現行どおり</p> <p>続けなければならない事業である。継続していただきたい。</p>							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.11

令和2年度

事業名	スクールバス運行事業(小学校)						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育			
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進								
2 予算の体系	款	10	項	2	目	1	事業	14	小学校スクールバス運行事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度		令和元年度		令和2年度			
	国・県・支出金		34,873 千円		34,348 千円		10,846 千円			
	その他財源		13,409 千円		12,133 千円		11,529 千円			
	一般財源		46,907 千円		49,491 千円		71,639 千円			
4 事業の目的	対象	青葉小学校・葵小学校に在籍し、おおむね3km以上の地区から通学する児童(希望制)								
	目的	学校統合により、遠距離通学となる児童の通学の安全及び負担の軽減を図る。								
5 事業の概要	<p>【運行車両】大型バス5台、中型バス9台、小型バス3台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時1回、下校時1回の計2回</p> <p>【停留所数】青葉小学校:49ヶ所、葵小学校:21ヶ所</p> <p>【利用料】・利用者1人につき月額3,000円</p> <p>【利用料】・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。3人目以降は免除。</p> <p>【利用料】・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。</p>									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成30年度	令和元年度	令和2年度			
	スクールバス利用者数				534名	532名	513名			
	スクールバス年間運行日数				204日	190日	200日			
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法等を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	スクールバスを導入して7年目となり、教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになった。大きな事故もなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげた。								
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	昨年度末に葵小の契約更新があり、運行内容や方法等を精査したうえで、入札により決定した適正な価格で事業運営を行った。財源の確保、また利用者の公平性を保つためにも、利用料の未納分の徴収に努める。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり									
	必要な事業であるため、引き続き継続して欲しい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.12
令和2年度

事業名	スクールバス運行事業(中学校)						担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育			
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進								
2 予算の体系	款	10	項	3	目	1	事業	14	中学校スクールバス運行事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度		
	国・県・支出金		2,056 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		802 千円			697 千円		777 千円		
	一般財源		4,876 千円			7,108 千円		6,257 千円		
4 事業の目的	対象	青葉中学校に在籍し、昭和区及び網掛区等、遠距離から通学する生徒(希望制)								
	目的	学校統合により、遠距離通学となる生徒の通学の安全及び負担の軽減を図る。								
5 事業の概要	<p>【運行車両】中型バス1台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時2回、下校時2回の計4回</p> <p>【停留所数】4ヶ所(宮ヶ崎第六公民館・香取学習館・網掛学習塾前・網掛ゴミ収集所)</p> <p>【利用料】・利用者1人につき月額3,000円</p> <p>【利用料】・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。3人目以降は免除。</p> <p>【利用料】・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。</p>									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	スクールバス利用者数						27名	26名	29名	
	スクールバス年間運行日数						202日	188日	200日	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになり、大きな事故もなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげた。								
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	運行内容や方法を精査するとともに、財源の確保、また利用者の公平性を保つためにも、利用料の未納分の徴収に努める。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり									
	必要な事業であるため、引き続き継続して欲しい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.13

令和2年度

事業名	小学生ヘルメット購入補助事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策	⑤安全対策・通学対策の推進									
2 予算の体系	款	10	項	2	目	2	事業	14	通学援助費		
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		822 千円			870 千円		951 千円			
4 事業の目的	対象	児童									
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、児童の安全を確保することを目的とする。									
5 事業の概要	新入学児童及び4年生にヘルメットを配布した。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	ヘルメットの無償提供数						456名	448名	438名		
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	当町は公共交通機関に乏しく、スクールバスを導入している学校に在籍する対象地域の児童以外は原則徒歩通学となる。そのため交通事故から子どもたちを守る対策が必要である。									
	有効性	○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない									
	目的とする実績や成果はあげられたか	登下校中の児童を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。									
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない									
経費や手段は適切であるか	新入学児童の増減により経費は変動する。また、転入の対応として追加購入することもあることから、前年度と比較すると経費は微増となった。										
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止									
	● 現行どおり	登下校の際の児童の安全確保のため、今後も事業を継続して欲しい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.14

令和2年度

事業名	中学生ヘルメット購入補助事業						担当課	学校教育課			
1 総合計画の体系	章	3 時代を担う育む教育・文化のまち				節	1 学校教育				
	主要施策		⑤安全対策・通学対策の推進								
2 予算の体系	款	10	項	3	目	2	事業	14	通学援助費		
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		681 千円			708 千円		816 千円			
4 事業の目的	対象	生徒									
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、生徒の安全を確保することを目的とする。									
5 事業の概要	新入学生徒のうち自転車通学者に対し、ヘルメットの購入額を全額補助した。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	ヘルメットの無償提供(購入補助)数						227名	236名	272名		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		中学校の生徒は、青葉中学校のスクールバスの対象地域の生徒以外、ほとんどが自転車通学となる。そのため交通事故から子どもたちを守る対策が必要である。								
	有効性		○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		登下校中の生徒を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。								
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
経費や手段は適切であるか		新入学生徒の増減により経費は変動する。購入額の全額補助により入学時の保護者の負担を軽減することとなっている。									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	登下校の際の生徒の安全確保のため、今後も事業を継続して欲しい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.15

令和2年度

事業名	青少年育成事業						担当課	生涯学習課						
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	5 青少年健全育成							
	基本施策	④青少年の体験・交流活動等への参画促進												
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業	12	青少年育成事業費					
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度						
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円						
	その他財源		55 千円			184 千円		101 千円						
	一般財源		5 千円			5 千円		28 千円						
4 事業の目的	対象	児童・生徒												
	目的	様々な体験活動や学習機会を提供し、子どもたちの人間性・創造性を育むことを目的とする。												
5 事業の概要	①里山自然体験 (2回:38人)		②将棋教室 (6回:11人)		③ニュースポーツ教室 (6回:7人)		④コップで教訓茶わんをつくろう (1回:20人)		⑤液体窒素で-196℃の世界を体験 (1回:22人)		⑥ハニワをつくろう (1回:15人)		体験学習の森 駒場庁舎	さつま芋掘り、竹弓、竹鉄砲作り等 将棋体験 ユニカール、スナックゴルフ等 教訓茶わんでサイフォンの原理を学ぶ 液体窒素を利用した実験 親子で埴輪づくり
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度					
	自然体験事業参加人数						35 人	59 人	38 人					
	子ども教室参加人数						103 人	116 人	75 人					
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い											
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		日常では経験できない様々な体験、交流活動を通して、創造性、協調性を育む機会を提供している。											
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない											
	目的とする実績や成果はあげられたか		異年齢の子供たちと、町の自然を生かした体験や多様な学習を行うことで、自主性、協調性及び社会性の習得に結びついている。											
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない											
	経費や手段は適切であるか		里山体験では、常陽森のボランティアに委託し、2回の実施となり充実した内容と職員の負担軽減になった。 子ども教室では、町内の講師を活用し経費節減に努めている。											
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止					
	● 現行どおり													
	コロナ禍において、事業の進め方など大変だと思うが、事業を継続してもらいたい。													

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.16

令和2年度

事業名	放課後子ども教室推進事業						担当課	生涯学習課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	5 青少年健全育成			
	基本施策		③ 家庭・地域の教育機能の向上							
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業	13	放課後子ども教室推進事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度		
	国・県・支出金		1,649 千円			1,698 千円		1,457 千円		
	その他財源		548 千円			245 千円		194 千円		
	一般財源		2,975 千円			3,222 千円		3,185 千円		
4 事業の目的	対象	児童								
	目的	小学校の施設を利用して、全ての児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験活動を行う機会を設ける。								
5 事業の概要	町内全4小学校において、週1回実施。 長岡小学校、大戸小学校、葵小学校は定員100名、青葉小学校は定員150名。 放課後の時間を利用して、自主学習、スポーツ体験活動等を行っている。									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	実施校数						4 校	4 校	4 校	
	参加者数						344 人	152 人	134 人	
7 事業の評価	必要性		○ 必要性が高い ● 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		子供たちの安全・安心な活動拠点として、様々な学習、スポーツ体験活動等を提供している。							
	有効性		○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか		異年齢との活動や、様々な体験により豊かな人間性を育む場となっている。							
	効率性		○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか		参加者が減少傾向にあるため、内容の検討、充実を図っていく。また、町民講師等を活用し地域交流を推進する。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり									
	児童クラブと放課後子ども教室を両方利用している児童もいるようなので、上手く連携して進めていただきたい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.17

令和2年度

事業名	町民教養講座開設事業						担当課	生涯学習課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習		
	基本施策		④特色ある講座・教室の企画・開催						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業	13	町民教養講座開設事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		451 千円			332 千円		110 千円	
	一般財源		85 千円			34 千円		97 千円	
4 事業の目的	対象	全町民							
	目的	町民に様々な学習の機会を提供をすることにより、より豊かな情操を持ち学習意欲を高め、社会への積極的な参加を促すとともに、自分の生涯学習を見つけることを目的として開講する。							
5 事業の概要	【事業内容】5講座開催 ①フラダンス講座(7回:5人) ②リラックスヨガ(7回:10人) ③やってみようつまみ細工(5回:11人) ④全身バランスよく引き締めるシェイプアップ講座(4回:13人) ⑤親子で星空観察会(1回:18人)								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度
	長期講座受講者数						61 人	34 人	15 人
	短期講座受講者数						111 人	103 人	42 人
7 事業の評価	必要性	○ 必要性が高い ● 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	町民一人ひとりが豊かな情操を持ち、自らの学習意欲を高め、生活文化の向上を図るとともに、新たなコミュニケーションを構築できる場の提供に努めた。							
	有効性	○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、受講回数が少なくなったが、感染予防対策を講じ、町民のニーズに応える企画に努めた。							
	効率性	○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	全戸にチラシを配布し、郵便、FAX、インターネットでの受付を行っている。関係機関や多方面からの情報収集、多様な町民講師の確保に努め、講座の充実を図っている。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要	○ 拡大	○ 縮小	○ 休止	○ 廃止				
	● 現行どおり								
	新型コロナウイルスで、昨年は回数が減っている。今後も工夫をして進めていただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.18

令和2年度

事業名	長生大学運営事業						担当課	生涯学習課		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習			
	基本施策		④ 特色ある講座・教室の企画・開催							
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業	14	長生大学事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度		
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		195 千円			195 千円		0 千円		
	一般財源		505 千円			697 千円		106 千円		
4 事業の目的	対象	65歳以上の町民								
	目的	時代に対応する心構えを養い、心身ともに健康で、生きがいがづくりの一環として学習やクラブ活動を行うことを目的とする。								
5 事業の概要	【事業内容】 実施回数：16回 活動内容：クラブ活動 講師料等：106,000円 ①大正琴クラブ活動(8回) ②民舞クラブ活動(8回)									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	長生大学受講生数						194 人	215 人	0 人	
	クラブ活動者数						12 人	12 人	10 人	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		長生大学の受講者の意見等を反映し、参加者の希望に添った事業運営に努めている。							
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか		長生大学の月1回の学習会については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止とした。							
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか		クラブ活動の開催に対応した企画、運営を行っている。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり									
	今後も現行どおり継続していただきたい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.19

令和2年度

事業名	人づくり推進事業						担当課	生涯学習課			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習				
	基本施策		④ 特色ある講座・教室の企画・開催								
2 予算の体系	款	10	項	5	目	7	事業	13	人づくり推進事業費		
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		412 千円			458 千円		0 千円			
4 事業の目的	対象	全町民									
	目的	一流の文化人による講演会を開催することにより、町民の学習活動を支援し、豊かな心と広い見識を持つ人づくりを目的とする。									
5 事業の概要	【人づくり文化講演会】										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	文化講演会聴講者数						300 人	300 人	0 人		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		町民の学習機会の充実を図り、学習意欲の向上を支援するために本事業の必要性は高い。								
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止とした。								
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		多くの町民の参加を促すため、広報誌、ホームページだけでなく、秘書広聴課と連携し、町民の日開催ポスターへ掲載し、広く周知を図っていく。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	講師については、幅広い分野から選定して欲しい。町民の関心を引くようなテーマ設定でお願いしたい。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.20

令和2年度

事業名	図書館運営事務						担当課	生涯学習課(図書館)			
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習				
	基本施策	② 生涯学習関連施設の整備充実・利用促進									
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	11	図書館運営事務費		
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度			
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円			
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円			
	一般財源		7,885 千円			8,944 千円		9,068 千円			
4 事業の目的	対象	図書館利用者(町内及び広域)									
	目的	図書館は地域の情報発信拠点として、利用者に十分な資料の貸出や各種のサービス及び情報を提供することを目的としている。									
5 事業の概要	一般利用者及び施設等への資料貸出を行う。町民の学習、読書意欲に応えるため、幅広い資料・情報を収集し、利用者のニーズに速やかに対応できるようにする。また、幼児・児童・生徒に対し読書を習慣づける取り組みとして、総合学習の支援、施設見学などを積極的に受入れ、全年齢層の図書館利用促進に努める。さらには職場体験等を実施し、図書館を通して勤労観を養い、社会参加、地域交流、人づくり教育の場としての一役を担う。										
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					平成30年度	令和元年度	令和2年度			
	資料の貸出(相互貸借・団体貸出を除く)					119,120	115,123	95,798			
	団体貸出(出前サービス含む)					14,817	14,812	13,052			
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		情報通信技術の進展により、多種多様な情報についての要望が多い中、リクエスト・レファレンス・ネットワーク等、それぞれにおいて需要に合った迅速な資料の提供を行っている。								
	有効性		○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか		図書資料の貸出については、一般利用者のほか、保育園や幼稚園・小中学校など施設に対し図書の出前サービスで積極的な貸し出しを行ったが、コロナ禍により休館、サービスも一時停止せざるを得なかった。								
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか		図書資料等については、利用者の要望等に応えながら、幅広い選書・選定による購入を行うとともに、あわせて相互貸借(県内図書館)を活用し、充実した資料の収集・提供を図っている。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止		
	● 現行どおり										
	日本の四季の行事の紙芝居がないため、あると良い。										

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.21

令和2年度

事業名	読書推進活動事業						担当課	生涯学習課(図書館)		
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習			
	基本施策		⑥ 読書活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	12	読書推進活動事業	
3 事業費 (決算額)	財源		平成30年度			令和元年度		令和2年度		
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円		
	一般財源		398 千円			441 千円		368 千円		
4 事業の目的	対象	生後5～9か月の乳児及び保護者、小中学生								
	目的	ブックスタート事業、読み聞かせ事業及び小中学校への図書館司書派遣を行うことにより、乳幼児をはじめ、児童・生徒が本に慣れ親しみやすい環境を整え、読書推進を図ることを目的とする。								
5 事業の概要	ブックスタート事業は、生後5～9か月児を対象に健康増進課で実施する離乳食教室及び育児相談時に、図書館職員とボランティアによる絵本の読み聞かせを行いながら絵本を配布する。また、ブックスタートのフォロー版として読み聞かせ事業『絵本となかよし』を行っている。さらには町内の小中学校へ図書館司書を派遣し、図書館資料お届けサービスや学校図書館の環境整備などの支援を行う。									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	ブックスタート事業(乳児健康診査・ごっくん教室)						133人	107人	98人	
	小中学校への図書館司書派遣(司書派遣回数)						75回	67回	60回	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	少子化や核家族化が進み女性の社会進出も増え、地域との繋がりが希薄となり、子育ても孤立しがちな状況となっている中で、様々な角度からのボランティアと連携した子育て支援が求められている。								
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	コロナ禍により、ブックスタートでは、本来目的とする絵本を通じて親子のふれあいの時間を持つ大切さを伝える「読み聞かせ」ができず、絵本の手渡しのみとなってしまった。図書館司書の派遣については、学校休校中を除き、定期的に学校図書館支援活動ができ、図書館資料お届けサービスも利用者が増えている。								
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	ブックスタート事業で配布する絵本セットを購入し、健康増進課と連携をしながら事業を進めた。読み聞かせはできなかったが、図書館の案内をしながら、保護者、お子さんの顔を見て手渡しでき、絵本の読み聞かせの大切さを伝えられた。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大		○ 縮小		○ 休止		○ 廃止	
	● 現行どおり									
	図書館の2階に不登校支援教室がある。ボールが下に落ちたりすることもあるので、何かネット等対策が講じられれば良いと思われる。									

教育委員会における今後の対応について

学識経験を有する評価委員から今後の方針等，貴重なご意見をいただき，令和2年度の教育に関する事務事業の点検及び評価を実施いたしました。

点検及び評価の手法につきましては，事業の必要性，有効性及び効率性の観点から定量的指標を示すことにより，公平かつ客観的な評価の実施に努めました。そのうえで令和2年度における主要21事業についての点検及び評価を実施し，事業の成果や課題の検証，さらに今後の事業方針等を確認いたしました。

点検及び評価の結果，評価対象である21事業について概ね良好に執行されているとして，今後についても現行どおりの事業運営を継続すべきであるとの評価をいただきました。各事業にてご意見やご指摘がございました課題や改善事項につきましては，再度，個々の事業を点検し，より事業の効果を高めるべく，教育行政の一層の推進に努めてまいります。

次年度の点検及び評価につきましては，引き続き，点検及び評価の手法を改良し，実効性が高い評価の在り方を検討してまいります。

茨城町教育委員会は，評価委員からいただいた貴重なご意見をもとに，事業のさらなる改善を図り，町民に信頼され，支持される教育行政の充実に努めてまいります。

令和3年8月

茨城町教育委員会